

「はやぶさ」334号 2020年02月14日(金)

###free1###

###name### 様

プロの芸人が伝授！
人を笑顔にするトーク術とお客様に共感してもらえるコツ
＝売上倍増の秘訣！

「はやぶさ」334号 2020年02月14日(金)

第3回『父の遺言のお蔭で、私は今、お笑い芸人という天職に就いています』

著者：理念経営 PR お笑いタレント・ダイエットインストラクター
ヤセ騎士（ナイト）

◆目次にかえて・・・

私は、今年で芸歴15年目のお笑い芸人で、ダイエットインストラクターの資格をもちます。ヤセ騎士(ナイト)と申します。今回5回にわたって私の人生経験と信念を語ります。

5回シリーズですが、目次は

- ① #332・・・・・・ 200117 ……バックナンバー
https://rinenkeieishi.net/archives/data/mls722lpdf_1_388.pdf 参照
「人を笑わせること、笑顔の驚異的な力」
- ② #333・・・・・・200131…………バックナンバー
https://rinenkeieishi.net/archives/data/mls722lpdf_1_389.pdf 参照
「苦難は幸福の門～人生のどん底からお笑い芸人へ転身」
- ③ #334・・・・・・200214 今回の記事
「父の遺言のお蔭で、私は今、お笑い芸人という天職に就いています」
- ④ #335・・・・・・200228
「人を笑わせる技術・人を笑顔にする会話術」
- ⑤ #336・・・・・・200313
「笑う門には福来たる～人を笑わせてコミュニケーションを円滑にすれば結果は必ず出る」

予告ですので変更することがありますので、悪しからずよろしくお願いいたします。

*前回の続きですが、自殺を考えた夜にマインドツリーによって本当に自分のやりたことを見付け、吉本興業(大阪)所属のお笑い芸人、魔界岩棲(マジイロキ)という芸名で2006年より舞台やテレビで活躍することになりました。

※それまでの経緯は、前回の「はやぶさ」333号をお読み下さい。

芸人という仕事は本当に楽しく、全国ネット、日本テレビ「エンタの神様」にも出演させて頂き、人を笑顔にする仕事の素晴らしさに気づき、毎日が充実していました。

①一難去ってまた一難・・・修行は続く

そんな時、また苦難が訪れます。うちの弟から一本の電話があり、母が悪性リンパ腫というガンになったと…。私は、すぐに15年間住んだ大阪をあとにして、実家の埼玉県に帰りました。

そこで、私と母と父の三人の生活が始まります。母からは「40歳過ぎたいい大人が、何がお笑い芸人だ！夢で飯が食えるわけないだろ？現実をちゃんと見て、定職に就きなさい！」と、言われました。母の病気はいつどうなるかわからないので、私は芸人を諦め、普通の仕事に就きました。

でも、やはり自分の好きなことをやってないので毎日が虚しいのです。そんな時に、更に健康だった父が脳溢血で倒れました。私の父は、私の芸人という職業を応援してくれていた唯一の理解者でした。

その親父が6年前に他界しました…。その父から、亡くなる半年前に遺言として言われた言葉があります。それは…。

「俺は、まさか脳溢血で入院することになるとは思わなかったよ…。死に直面して思ったことは、人間なんて、死に方は選べねえよなあ…。でも、生き方は選べるんだからお前の本当にやりたいこと、芸人を真剣に頑張れ！」と言われました。

私は、その言葉に涙が止まらなくなりました。私は、その父の言葉のお蔭で、これからどんなことがあっても、誰から何を言われても芸人で食ってくと決意しました！

人間は決意すると強いもので、その後、誰からどんなネガティブなことを言われても動じる事は一切ありませんでした。そしてその半年後、父は亡くなりました…。私は、父の言葉を信じて、とにかく自分のお笑いを見てもらおうと、ノーギャラで公共施設や老人ホーム他、色んな施設を廻りまくり、私の今までためてきたネタを各地で披露しました。

すると、それが口コミで広がり、新聞や雑誌や広報誌の取材を受ける様になり、お笑いが社会貢献になってることに喜びを感じる様になりました。

それでも、お笑い芸人という職業を反対してる母にどうしたら認めてくれるんだ？と問いかけました。すると母は「地元、志木市の市民会館(800人収容)を満席にして、そこで大爆笑取ったら認めてやる！」と難題を突きつけてきました。

私は、40歳過ぎて反抗期だったので(笑)「よし！やってやるよ！」というこ

志木市民会館でお笑いライブをやることにしたら、埼玉新聞社や広報やマスコミの方々が協力してくれ、宣伝をしてくれました。

②念（おも）いは叶う！・・・アリアリとビュアライズする

それでも集まったのは、約200人でした。勿論、母は観に来てくれません…。その時に、これまでに学んできた成功哲学の一つ「ビジュアライズ」というものを思い出し、私は毎晩、800人の満席の会場で、大爆笑取ってる姿を思い浮かべました。すると奇跡が起こりました！

志木市ではないんですが、隣の市の富士見市からの依頼で、敬老会に呼ばれることになりました。

当日、来て頂いた人数はなんと、800人でした！でも、これは私を観に来たお客様ではなく、敬老会なので商品券がもらえるので、その商品券を求めて来た800人だと思います(笑)

そして私は、満席の800人の前で天国の父が見守ってくれていると実感しながら、全力でネタを披露しました。今まで10年以上ためたネタの中でもウケたところだけを集めて凝縮したネタだったので、会場は大爆笑の連続でした。

その日は、うちの母も来てくれています。これだけ、爆笑取ったら流石に母も認めてくれるだろうと思い、客席の母を探しましたが、客席は暗くて見えません。そして舞台が終わり、最後に「ありがとうございました！」と頭を下げた瞬間、ものすごい量の拍手が沸き起こりました。800人の拍手の迫力は凄まじいもので感慨深いものでした…。

その拍手を聞いた瞬間、目頭が熱くなり泣き出しそうになりましたが、「自分はプロだ！」と言い聞かせ、なんとか耐えました。

するとその時、客席の電気がついたんです…。

皆さんの顔を一人一人見ることが出来ました。すると、全員が笑顔で拍手をしていていました。私は本当にこの仕事をやって良かったと実感しました！

その時に、そういえば今日は母が見に来ているんだ！と、母を必死に探しました…。これだけウケれば母も認めてくれるだろう…。皆さんと一緒に、さぞかし笑顔で

拍手をしてくれるだろうと思いながら探していると、母を見付けることが出来ました。すると…。母は拍手してくれてなかったんです…。

拍手ではなく、号泣してたんです…。(泣)

その姿を見た瞬間、私も涙腺が決壊し、大粒の涙がぼたぼたと流れました。

その涙を隠すために、もう一度「有難うございました！」と頭を下げました。

すると、その大粒の涙がポタポタたれると共に、緞帳がゆっくり下がりました。

後で聞いた話ですが、母はこの時初めて舞台を観に来てくれたと思い込んでいたら、実は、私の過去の舞台をすべて私に内緒で、こっそり見に来ていたのだそうです…。

母はずっと私を応援してくれていたんです。反対していたと思っていた母が、実は私の一番の理解者であり、応援者でした。

1度は本気で自殺を考えた人間が、父の遺言により、今では母の応援を糧にお笑いという世界で、一生懸命生きています。今は、毎日が本当に充実してます。

今回は、#335は2月28日にお送りします。「人はどんな時に笑うのか？なぜ笑うのか？笑いの心理学」をお送りします。最後までお読みいただき感謝いたします。本当に有難うございました。

では、また次回にお会いしましょう！

バックナンバーは、

https://rinenkeieishi.net/archives/data/mls722/pdf_1_382.pdf

をご覧ください

**お問い合わせ・質問は メールアドレス： hos_biz@hosbiz.net

発行責任者：平本 靖夫、 編集長：石川 昌平

配信解除URL：配信停止をご希望の際は、以下のアドレスをクリックしてください。

http://1lejend.com/stepmail/dela.php?no=xxewhs&a_mail=###mail###